

教育学研究科・グローバル教育展開オフィス

小池 光・教育認知心理学コース・博士後期課程1年

国際学会：International Congress of Psychology

参加地・期間：Prague, Czech Republic 2024/7/21-26

発表題目：Performers of traditional Japanese theatrical art “Noh” have higher interoceptive awareness

成果の概要

いただいた助成金は、2024年7月21日から26日にかけてチェコ、プラハにて開催された国際学会”International Congress of Psychology (ICP)”にかかる渡航費に充てさせていただきました。本学会にて私は”Performers of traditional Japanese theatrical art “Noh” have higher interoceptive awareness”というタイトルでポスター発表を行いました。内容としては、伝統芸能「能」のプロの役者を対象として、「身体感覚への気づき」に関する質問紙調査を行った結果をまとめたものです。私の発表は23日の9~11時でしたが、朝一番のセッションにも関わらず会場にはすでに多くの参加者が集まっていました。ポスター発表は会場のコンパクトな一室で行われたこともあり、参加者同士の距離が近く、発表者に話しかけやすい環境でした。

伝統芸能「能」というテーマを取り上げたことで、実験心理学・認知心理学以外の分野の研究者の方々が発表を聞きに来てくださったことが印象的でした。国際会議に参加するのは初めてだったので、最初は不安も強く、発表時間の前半は地に足つかないような気持ちでいました。ですが、聴衆のみなさまが穏やかな物腰で話しかけてくださったので、こちらも落ち着いて説明することができ、質疑応答でも最低限の意図を伝えることはできたと感じています。特に思い出深かったのは、私の発表を聞きに来てくださった方が紹介してくださったシンポジウムに参加したことです。その方は台湾の学生で、音楽教育を専門にされていることから、同じ音楽をテーマとする私の発表に興味を持っていただいたとのことでした。しかし、共通しているようで専門領域はまったく異なっており、互いに基本的な質問をしあうばかりではありましたが、英語という共通言語を通じて会話するうちに絆のようなものが芽生えるのを感じました。その後も大会公式アプリを通じてメッセージを送り合い、良い関係を築くことができたと感じています。また、その方も私と同様英語が母語というわけではないようでしたが、シンポジウムでの発表がとても分かりやすかったのが印象的でした。

このような実りある経験ができたのは、国際学会発表支援をいただけたからにほかなりません。多くの視点を取り入れ、世界的に活躍する研究者になるためには、国際学会への参加を通じて海外の研究者との交流を深めることが不可欠だと考えられます。一方で、特に今回のようにヨーロッパで学会が開催される場合、安定した収入のない私たち学生が数十万円の渡航費を自費でまかなうことは困難です。そのような状況において必要な渡航費の大部分を負担していただける本制度のおかげで、私は研究者としての新たな一歩を踏み出すことができました。この度助成をいただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

まだ研究を始めて数年しか経過していない私にとって、普段は論文を通してしか存在を感じることはできなかった海外の研究者と実際にお会いし、議論したことは非常に新鮮で、貴重な経験になりました。多くの「今後私の執筆した論文やポスターを読んでもくれるかもしれない人」と出会ったことで、読み手のことを考えながらよりわかりやすく自分の研究を伝えていこうという思いをより一層強く持てるようになりました。今回のポスター発表の内容の論文化にはすでに取り掛かっており、国際ジャーナルへの投稿準備を進めています。今回の国際学会発表の経験を踏まえ、査読や著者校正といったプロセスを重ねる中で、より質が高く、読み手にとってわかりやすい論文として出版できるよう励んでまいります。